熊本市
若者・ヤングケアラー
支援センター

〒862-0954
熊本市中央区神水2丁目13-35

若者相談

TEL　096-243-5600
Mail　wakamono-owl
@aioros.ocn.ne.jp

ヤングケアラー相談

TEL　096-243-1300
Mail　young-owl
@aioros.ocn.ne.jp

FAX　096-243-5601（若者・ヤングケアラー共通）
H P　https://wakamono-young.org/
HPはこちら

熊本市若者・ヤングケアラー支援センター

あうる

『あうる』とは英語でふくろうという意味です。ふくろうは「福が来る」「苦労しない」夜行性で夜目が利くことから「見通しが明るい」「未来を見通す」とも言われています。そんな幸運の鳥のように、これから先の幸せを一緒に考え、明るい未来を実現できるようにという願いを込めています。

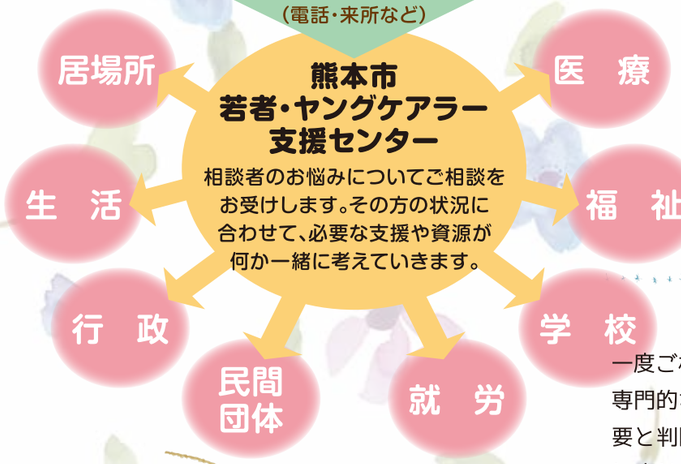
熊本市若者・ヤングケアラー支援センター

あうる

当センターでは、熊本市にお住まいの若者とヤングケアラーの相談を受け付けています。概ね18歳～39歳の方とそのご家族、お知り合い、その他関係機関からの様々な相談（ニート、ひきこもり、就労、疾病・障がい、人間関係等）をワンストップで受け、その方の状況に合わせて情報の提供、助言、適切な支援機関のご紹介等をしています。また、ヤングケアラーの支援体制を整え、早期発見・把握する等、適切な支援に繋げています。尚、ヤングケアラー相談は40歳未満の方が対象となります。まずは、どんなことでお困りかをお聞かせください。

ひきこもり・不登校・ヤングケアラーなど
様々な悩みをもった子ども・若者とその家族

センターへ
相談
（電話・来所など）



電話相談、来所相談の他に次のような相談が出来ます。

訪問相談

相談者さんがセンターまで来所することが困難な場合、スタッフがお住いの地域に訪問することも可能です。事前予約が必ず必要です。
※本人の了解が得られていない状況での家庭訪問は行っておりません。

メール・SNS相談

メール相談・SNS（ＬＩＮＥ）相談を24時間受け付けております。
返信は開所時間内となるため、お時間をいただく場合もございます。アドレス等につきましては、裏面をご確認ください。

同行支援

一度ご相談いただき、より専門的な機関での支援が必要と判断される場合、必要に応じて同行支援を行います。

居場所活動

様々な困難を抱える若者やヤングケアラーが孤立しないようにいつでも気軽に立ち寄れ、安心して自由に自分の時間が過ごせる場所です。開所時間中はご利用できます。但し、ご利用について、必要な手続きがありますので、一度ご相談ください。

その他

出張相談会やサロン、研修会などのイベントも開催しています。開催の際にはホームページ等でお知らせします。関係機関等での研修も承ります。

当センターの利用について	
電　話　受　付	平日　9：00～18：00 TEL　096-243-5600（若者相談） TEL　096-243-1300（ヤングケアラー相談） FAX　096-243-5601（若者・ヤングケアラー共通）
来　所　相　談	9：00～18：00（要予約）
休　　館　　日	土曜日・日曜日・祝日及び年末年始
対　　象	熊本市在住の主に18～39歳の方とそのご家族、お知り合い、関係機関等（ヤングケアラー相談は40歳未満）
料　　金	相談は全て無料で承っております
ス　タ　ッ　フ	公認心理師、臨床心理士、社会福祉士、キャリアコンサルタント等

ヤングケアラーとは…

「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」（おおむね30歳未満が中心となるが、状況等に応じて40歳未満の者も対象。）です。

目が離せない家族の見守りや声かけをしている。

慢性的な病気や障がいのある家族の看病をしている。

病気や障がいのある家族の入浴やトイレの介助をしている。

病気や障がいのあるきょうだいの世話や見守りをしている。

日本語が話せない家族や障がいのある家族のために通訳している。

病気や障がいのある家族の代わりに家事をしている。

病気や障がいのある家族の身の回りの世話をしている。

家計のために働いて、病気や障がいのある家族を助けている。

家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている。

心が不安定な家族の話を聞いている。

こんなご相談があっています

仕事で悩んでいたAさんの場合

仕事や職場での人間関係がうまくいかず、すぐに辞めてしまうという悩みを抱えて来所されました。面談の中で本人の長所・短所を整理し活かし方を考えました。その結果、現在も継続して就労されています。

ヤングケアラーのBさんの場合

ひとり親家庭で病気がちな母親に代わり家事をするBさん。顔色の良くないBさんに担任の先生が声をかけ、センターに相談がありました。子供食堂や行政等の様々な支援を紹介、活用し、生活は次第に落ち着いていきました。